

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-640/64C	12-002	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Pre-diagnostic alcohol consumption and postmenopausal breast cancer survival: a prospective patient cohort study. 診断前飲酒量と閉経後乳癌生存率の関連：前向き症例コホート研究		
執筆者		
Vrieling A, Buck K, Heinz J, Obi N, Benner A, Flesch-Janys D, Chang-Claude J.		
掲載誌		
Breast Cancer Res Treat. 2012 Nov;136(1):195-207.		
キーワード		
乳癌、飲酒、死亡率、再発率		
要 旨		
<p>目的： 飲酒量と乳癌後生存率に関する研究結果に一致を見ない。その理由の一つに生存率の定義が異なることが考えられる。</p> <p>方法： 診断前飲酒量と乳癌生存率、乳癌再発率の関連について 50-74 歳の閉経後乳癌患者 2,522 人を有するドイツの前向きコホートで検討を行った。診断は 2001 から 2005 年の間に行われ、生死、死因、再発の有無について 2009 年末まで追跡した。診断時年齢と研究施設により層別化し予後規定因子で調整したコックス解析を行った。</p> <p>結果： 飲酒量は非線形的に乳癌死亡率と関連があった[例： 一日飲酒量<0.5 g に比べて≥12g ではハザード比(HR) = 1.74, 95 % 信頼区間 (CI): 1.13, 2.67]。この結果はエストロゲン受容体の有無とは無関係であった。他の原因での死亡率は有意ではなかったが低下した。(一日飲酒量<0.5 g に比べて≥12g では HR= 0.67, 95 % CI: 0.35, 1.29)。飲酒量は総死亡 (一日飲酒量<0.5 g に比べて≥12g では HR=1.28, 95 % CI: 0.90, 1.81)および乳癌再発率(日飲酒量<0.5 g に比べて≥12g では HR= 1.08, 95 % CI: 0.73, 1.58)とは関連がなかった</p> <p>結論： 診断前飲酒量は非線形的に乳癌死亡率と関連があったが、他の原因での死亡率は減少した可能性がある。</p>		